

第 31 計；血族の家族愛が異常に高い。(中華思想その 3)

—現在中国医療保障と現在日本医療保障—

中国では家族の皇帝は父ではなく母であります。母が泣いて、その母が病気になった時、子供に最終的に諭す言葉は“你是我的骨肉呀？（貴方は私のお腹の痛めた子供でしょう、血を分けた子供でしょう？）”と泣いて子供に“生活資金”を頼むのです。従って父は“骨肉”ではない。これが中国の家族愛であります。所謂母系社会なのであります。

面子主義・利己主義を超えた中国人の「母の緊急依頼」は中国人にとっては、太陽の毛沢東をも超え“天意（天の言葉）”の言葉であるのです。繰り返し申し上げます。“你是我的骨肉呀 血を分けた子供でしょう？”という言葉であります。

“骨肉”という言葉は日本では一般的に“骨肉の争い（兄弟げんか）”の意味で使われ、日常殆ど使用しない言葉です。この言葉を使うと人間としての品格を落とすからであります。中国では天意（絶対神の言葉）の言葉なのであります。

現代中国で、相続問題（争い）は余り聞いたことがありません。古代はあったようです。特に宮廷では。

絶対神の母が「私の母が病気で治療費がない。封建主義下でお金のないお父さんに言ったら私もお父さんから離婚されるかも知れない。家庭が破綻する。」と言ったのである。また、この言葉は“父が病気になって収入がなくなった。”と言う場合にも使用されます。使用例は他にもあるが、とにかく聞かされた子供は男性であれば大学卒業生であっても一番汚い仕事、危険な仕事、辛い仕事を選択します。女性も頑張ります。極端な場合は、売春までします。このような家族の絆は最近日本では確実に見られないでしょう。

学歴が高くても、また公務員でもこういう時は反日教育を受けた学生もデモなどせず汚い仕事をするし何でもするのです。

しかし、できるだけ地元の中国人とは売春しようとはしません。売春の場合は、地元を離れるのが常道であります。地元の中国人であれば密告されるか脅迫されるかが発生し、短期ビジネスは成立しにくいからであります。中国では医療制度・医療保険制度が確立されていないのは前述のとおりであるのです。

日産の高級車インフィニティは（日本では日本円で 600 万円から 700 万円する）中国で買うと日本円で約 150 万円（ローン制度あり）ですが、心臓の手術となると 100 万円を前金で支払わないと手術し

てくれないのであります。子宮筋腫の場合、日本円で約 30 万円であり、その後リハビリ等で倍の費用がかかります。患者が医者に電話すると“じっと寝て下さい”が通常の答えであります。半年・一年・・・同じです。その時の救いは針治療だけであるようです。

中国の針治療は非常に安い。日本で「手術が必要」とされ「一か月入院」と言われたので仕方なく、私は座骨神経痛とヘルニアの治療をする為に北京中医医院に一人で行ってみました。特別に中国人の紹介者があった為、治療を受ける事ができたのであります。治療戴いたのは、紹介者の従姉である R 主任 (女性の部長) でありました。一回が三日間の治療で、半年間で合計三回中国に通院しました。何と 10 分で睡眠状態になる。一回目は中国人の老人の女性が隣で先に治療を受けており、カーテンがなかったのでお尻がみえました。私は、別に見たくはなかったのですが、二回目からは窓に新聞紙が貼られた別室での治療でした。R 主任は日曜日、病院の前のホテルで治療をしてくれました。(R 主任に予約する人多く、たくさんの人々が並び、助手もたくさんいました。韓国人の助手もいました。その中で私は特別扱いでありました。この件では紹介者に今でも感謝しています。家族愛とは関係ありませんが、お陰さまで今は、ゴルフ

ができるようになったのであります。)

私は、中国人の家族愛が強いのは、政府の医療保険制度が未発達であることにも原因があると思います。

日本には政府の医療保険制度以外にも民間でも医療保険が開発されています。

私の親しい F 火災グループに F 生命があります。「癌になる人が 2 人に 1 人」の時代といわれている今、F 生命は、画期的な“がん保険”を開発しました。

ところで、日本の癌治療は、近年、著しい進歩を遂げております。従来の“外科療法（手術等）”、“化学療法（抗がん剤等）”、“放射線療法（重粒子線・陽子線等）”に加え、最近では、NK キラー細胞等で有名な“遺伝子治療（免疫療法）”が想像以上のレベルに達していると言っても過言ではありません。当然のことながら、PET 診断やバーチャル 3D 画像診断等の予防医学の分野も、中国とは、未だ大きな差があるものと思慮されます。最近、中国富裕層が家族で PET 診断や透析治療に来ています。

日本のアドバンテージは、政府の医療保険制度や医療機関の治療技術・施設のみならず民間生命保険の「がん保険」の商品レベルで

も顕著であります。

そもそも、民間の「がん保険」や「医療保険」といった第3分野商品といわれるものは、自民党・橋本政権時代の“金融ビッグバン 2002年以降には、銀行業・保険業・証券の各代理業の垣根の改革開放が行われたこと”境に登場しました。

生命保険各社のCMは、テレビに相当露出しております。アヒルと猫のCMでお馴染みの生保会社等、テレビで見ない日はありません。この分野の保険は、更に日本の伝統的な大手生損保をも巻き込んで激烈な販売競争を繰り広げました。

「がん保険」の当初は、例えば、癌による入院1日1万円とか、手術費用20万円とかの保障内容が主流でありましたが、近年、大きな過渡期を迎えたのであります。

つまり、前述したような癌治療で有効とされる抗がん剤や放射線治療の一部（技術料等）や話題の遺伝子治療などに“健康保険”が適用されないケースが多いこと、具体的には、予約が極めて困難で実際の受診には相当の労力を要するといわれる重粒子線治療は、幸運にも受診できたとしても約300万円の費用が必要なのです。

一方、病院サイドにも“ベッド不足”、“入院日数の短縮（平均7日～10日 最近では、日帰り手術）という傾向にあります、前述の保障例

である入院1日1万円・手術費用20万円の保険に入っている、保険金は、手術費用20万円＋7万円～10万円であり、完全治癒(ちゆ)に有効と話題の先進医療を受診する費用には程遠いのであります。然も、手術費用も含めて、入院代金は先ず患者が支払わなければならないのです。

そこで、がん保険等の進化系として生損保各社が販売しはじめたのが、所謂「先進医療特約」です。簡単にいうと日本の厚生労働省が「先進医療」と認める病院施設や技術、医薬品に対する費用を保障するというものです。

F 生命の医療保険や新がん保険にも当然、特約セットされています。ところが、この「先進医療特約」にも課題が発生してきたのであります。

課題1. 現状では、厚生労働省が認可する施設等があまりにも少ない。

課題2. 仮にその施設で受診しようとしても予約がとれない。(従って、係りつけの医師は、外科手術を勧める)

課題3. 超最新といわれる“遺伝子治療”が認可されていない。

課題4. 先進医療の費用は、纏った金額が必要であり、先進医療特約の保険金は治療後に支払われるものである。

以上4つの課題を克服するために「真剣に癌と向き合って」開発したとされるのが、前述 F 生命の「新がん保険」であります。

この保険は、“がんファイナンス”（がんと宣告された場合、人は何を望み、先立つお金をどうするか？）という部分に着目（ちやくもく）し、「先ず癌と診断されたら、がん診断給付金として纏ったお金（最高3千万円）を被保険者本人に支払い、以降、終身で再発転移した場合2年毎に診断給付金が貰える」というもので、診断給付金の使途は自由であり、厚労省の認可があろうと否にかかわらず、癌から生還する為の治療費に使おうが（中国漢方やアガリクス、フコイダン、鮫の軟骨等の健康食品に使おうが）、極端な話し、自分のことより、事業資金（資金繰り）や子供の教育費に使うことも可能なのであります。使途目的の制限がないのです。

正に日本の武士道精神も取り入れたような保険です。自分の事より、赤穂藩の行く末や義士の家族の経済的なことを熟慮したといわれる忠臣蔵の大石蔵之助を思い起こすのであります。

更に、この保険は、初めに癌（上皮内がんを含む）と診断された時点で、以後の保険料払い込み免除という日本初のプランなのです。

そして、私は思い出しました。中国農村部で家族の医療費の為に

する悲劇を……。私の挫骨神経痛とヘルニアは中国針で治りましたが、癌までは難しいと思うのです。(F生命の新癌保険では、針治療費用であろうとOKなのですが)。まるで、テレビショッピングで電気製品を販売している場面を思い出し、私も心配してF生命の役員に直接「大丈夫か」と電話いたしましたところ、自信満々の答えでありました。損保・生保には“対数の法則”の基本原理があり、あらかじめ危険率を統計学的に算出しているのです。時間があればF生保のコンピューターの公式を探索に行きたいと思っております。

私は家族愛の強い中国貧困層の救済を考えたのですが、中国での保険ビジネスとしては、日本人の人口以上に増殖中といわれる中国富裕層向けに有効であると思慮されます。私は、第21計で論じた“空気”“水”“食物”等の「環境の(輸出)ビジネス」に加え、多様化する先進の医療技術と保険は大注目であるとも考えております。

2010/10/24 2010/11/14